

イエスの証しの啓示と経験(1)

聖書：啓1:1-2, 9-20, 7:9-17

I. イエスの証しは、七つの金の燭台です。すなわち、性質は金(神聖なもの)であり、暗やみの中で輝いており、互いに同一です——啓1:1-2, 9-20:

- A. 金の燭台は、三一の神を象徴しています。すなわち、実質としての御父は、御子において具体化されており、具体化としての御子は、その霊を通して表現されており、その霊は諸召会として完全に実際化され、表現されており、諸召会はイエスの証しです——出25:31-40, ゼカリヤ4:2-10, 啓1:9-12。
- B. 神聖な思想において、実は金の燭台は、生きた、生長する木であり、^{がく}蓐とアーモンドの花があります。こういうわけで、燭台が描写しているのは、キリストにおいて具体化された三一の神であり、それは生きている、復活の、金の木です。すなわち、わたしたちの中で、わたしたちと共に、わたしたちによって、わたしたちから、生長し、枝を出し、芽を出し、開花させ、光の実を生み出します。この実は、性質において善であり、手続きにおいて義であり、表現において真実です。それは、神が表現されて、わたしたちの日常の歩みの中で実際となるためです——出25:31-35, エペソ5:8-9。
- C. わたしたちは金の燭台を、イエスの証しとして、すなわち、イエスの団体の表現として経験するために(使徒9:4-5, I コリント12:12)、絶えず主イエスの御名を呼び求めることによって(I コリント12:13, ローマ10:12-13, 哀3:55-56)、イエスの霊で満たされ(使徒16:7)、イエスの焼き印を帯び(ガラテヤ6:17)、兄弟たちとなり、イエスにある患難と王国と忍耐とに共にあずかっている者にならなければなりません(啓1:9-10)。
- D. 金を打ちたたいて、台を形成することは、信者がキリストの苦難にあずかることを表徴します。わたしたちの環境の中で起こるあらゆる事は、打ちたたかれた燭台を生み出すためです——出25:31, コロサイ1:24:
1. もしわたしたちが神を知ろうと固く決意して、その霊の内なる働きと外側の環境に服するなら、あらゆる環境は、わたしたちが彼を知る機会となります——ホセア6:1-3, ピリピ3:10前半, エペソ6:20, 創41:42。
 2. もし人が一生のうちに神を知らなければ、彼は一生を無駄にしたこととなります。どうか主がわたしたちに、わたしたちの環境の中の彼の取り扱いを受け入れる願いを与えてくださり、わたしたちがさらに彼を知ることができるようにしてくださいませように——II コリント4:16-18, 12:7-9, 参照、イザヤ7:14-15, II コリント5:14-15。
 3. 物事の最も重要な点は、さまざまな困難や試練のただ中で、偉大な光として

の主に出会うかどうかということです。苦難は、わたしたちが理解できなかった事をわたしたちに理解させることができます——1:8-9. 参照、エペソ1:17. ルカ1:78-79。

- E. 金の燭台の輝きによって人々は、彼らのただ中を歩く人の子としての、栄光のキリストのビジョンを見ます。諸召会のただ中にいる主が、永遠にわたって生きている方であることを知ることによって、わたしたちは絶えず霊の中で彼の臨在を確信することができます。彼はいつも生きていて、わたしたちのためにとりなしてください。彼は今やわたしたちのために、神の御顔の前に現れてください。彼は決して誤ることがなく、またわたしたちを捨てません——啓1:12-18. 2:1. IIテモテ4:22. ヘブル7:25. 9:24. 民6:22-27. 申31:6。
- F. 七つの金の燭台の七つのもし火の輝き、主イエスが火の炎のような七つの目をもって彼らのただ中を歩くこと、彼の足が輝く青銅のようであること、彼の御顔の輝きが太陽のようであることが示しているのは、わたしたちの日常生活と召会生活の中で、わたしたちが日々、主のさらに多くの輝きを必要としていることであり、それはさらに多く彼が牧養するためです。すなわち、彼が救い、回復し、復興し、神化するためです——啓1:14後半-15前半, 16後半, 4:5. 5:6. ルカ1:78-79. IIコリント4:6-7. マラキ4:2. 箴4:18. 詩第22篇, タイトル. 80:1, 3, 7, 14-19:
1. 光は、神の言葉の中にあります。それは、聖書の中の書かれた言葉ではなく、その霊が内側からわたしたちに語る言葉であり、聖書の言葉を新しくわたしたちに啓示します——啓2:7前半. 詩119:105, 130. ヨハネ6:63. エペソ5:26-27. 雅8:13-14. イザヤ66:2, 5。
 2. 照らしは、神のあわれみと共にあります。いつであれ神がやって来て、彼のあわれみを与えてくださるとき、彼の御顔の光はわたしたちの光であり、彼の現れはわたしたちのビジョンであり、彼の臨在はわたしたちの獲得です——ローマ9:15. 使徒9:3-4. イザヤ50:10-11. 民6:25-26。
 3. わたしたちは照らされるために、主の照らしを求め、主の照らしを受け入れ、固く決意して単一になって、すべての願いをもって主だけを追い求めなければなりません——詩139:23-24. ピリピ2:12-16. 歴代下12:14. 16:12. 34:1-3. 詩27:8. 73:25. ルカ11:33-36。
 4. わたしたちは照らされるために、自分自身を主に対して開き、わたしたちの心を主に向け、何も保留したり、とどめたりせずに、自分自身を主の御前に置かなければなりません。自分自身を主に対して閉ざす人は、もっぱら他の人を裁き、批判します——IIコリント3:16. 箴20:27. マタイ7:1-5. ルカ6:36-37, 41-42。
 5. わたしたちは照らされるために、自分自身を停止しなければなりません。これが意味することは、わたしたちの見解、わたしたちの物事の見方、わたし

たちの感覚、わたしたちの考え、わたしたちの意見を停止することです。完全に停止している人が主の御前にやって来るとき、彼は非常に単一になり単純になって、主の言葉を受け入れることができます——10:38-42. ヨハネ11:21-28. イザヤ40:31. マタイ5:3. ルカ18:15-17. イザヤ66:1-2.

6. わたしたちは照らされるために、わたしたちの内側で語るその霊の光と争ってはなりませんし、あるいは外側で語る霊の奉仕者の光と争ってはなりません——使徒22:10. 雅5:4-6. IIコリント10:3-5. 11:2-3. 民16:1-7, 33-39. 17:1-8. 参照、出33:11, 14.

7. わたしたちは照らされるために、絶えず光の中で生きなければなりません——イザヤ2:5. Iヨハネ1:7. ヘブル9:14. 10:22. マタイ5:3, 8, 14. 詩119:105. 啓1:20. 詩36:8-9.

II. イエスの証しは、宮の中で神に仕えている大群衆、すなわち、神の贖われた民全体です。彼らは天へと携え上げられて、神の顧みと小羊の牧養を享受し、天上にある、またキリストの中にある霊のあらゆる祝福を得ます。それは、今日わたしたちが享受することのできるものです——啓7:9-17. 21:22. 3:12. エペソ1:3. ガラテヤ3:14. 創12:2. 参照、啓21:3-4. 22:3-5. イザヤ49:10 :

A. 大群衆は、小羊の血をもって、あらゆる国民、部族、民族、言語から買い取られた人たちから成っており、召会の構成要素となっています——啓7:9前半. 5:9. ローマ11:25. 使徒15:14, 19. Iコリント6:19-20.

B. 「これらは大きな患難から出て来た人たちであって、彼らの衣服を小羊の血で洗い、白くしたのである」——啓7:14 :

1. ここの大きな患難は、各時代を通して神の贖われた民が経験した患難、迫害、苦難を指します——ヨハネ16:33.

2. 小羊の血は、わたしたちに対する悪魔の訴えすべてに答え、彼に対する勝利をわたしたちに与えます(啓12:11)。開かれた血の泉としての贖うキリストが、わたしたちのすべての罪と汚れを洗ったゆえに(ゼカリヤ13:1. ヨハネ19:34)、わたしたちはその泉に身を浸して、わたしたちのすべての罪の汚れを消すことができます(詩歌561番、1節)。また、「立ち上がって、神ご自身の光の中を歩き、この世と罪を超越し、心は新しくされ、衣は白くされ、内側でキリストが御座に着きます」(英文詩歌1010番、3節)。

3. わたしたちの衣服を洗うことは、小羊の血の洗いを通して、わたしたちの行為を清く保つことです。これはわたしたちに、命の木を享受する権利を与え、また神の永遠の祝福の領域である命の都に入らせます——Iヨハネ1:7. 啓22:14.

C. 大群衆は、しゅろの枝を手にして、御座と小羊の前に立っている人たちから成っています——7:9後半 :

1. しゅろの枝は、わたしたちが主のために受けた患難に打ち勝ったことを表徴

- します。それらはまた、水が注がれることを通して得られた満足のしるしでもあります——14節。参照、ヨハネ12:13。出15:27。
2. 神の宮としての三一の神の中で、わたしたちは昼も夜も彼に仕え、彼を永遠の仮庵の祭りとして享受し、しゅろの木のように栄えます——啓7:15前半。3:12。レビ23:40。ネヘミヤ8:15。詩92:12-13。ヨハネ7:2, 37-38。ローマ1:9。コロサイ2:19。
 3. 今日のわたしたちの時間の中での奉仕は、永遠の中の奉仕のための準備です。時間の中での神の唯一の目標は、ご自身を日々、わたしたちの中に分与することです。神がわたしたちの中に入って、わたしたちから出て来るとき、それが奉仕です——マタイ25:19-23。ヨハネ7:37-39。
- D. わたしたちはもはや飢えることがなく、渴くこともありません——啓7:16前半：
1. 飢え渴くことは、まだ満たされていない望みがあることです。キリストは、彼の中へと信じるすべての人が満足して、満足させる命としての彼を受けることを、約束します——ヨハネ6:35。
 2. わたしたちの霊の中で、霊なる神に触れることは、生ける水を飲むことです。そして、生ける水を飲むことが、神に対して真実の礼拝をささげることです——4:13-14, 23-24。
- E. 打つ太陽と焼け付く熱がわたしたちを襲うことはありません——啓7:16後半：
1. 御座に座している小羊・神は、わたしたちの上に幕屋を張り、彼ご自身をもってわたしたちを覆います——15節後半。Ⅱコリント12:9。
 2. 神のおおいの下にある命が一つあります。それは、神の中に隠されている命です——詩36:7-9。エペソ6:17。詩91:1, 17:8, 57:1。ルツ2:12。コロサイ3:3。
 3. エホバとしての、また人としてのキリストは、王であって、神の民を供給し、顧み、覆います。彼は、支配する王であり、また人でもあって、風を避ける避け所や、暴風を避けるおおいのようであり、乾いた所にある水の流れのようであり、荒廃した地にある大きな岩の影のようです——イザヤ32:1-2。
- F. 御座の中央にいる小羊は、わたしたちを牧養し、わたしたちを命の水の泉に導きます——啓7:17前半：
1. 牧養することは、養うことを含んでいます。キリストの牧養の下で、「わたしには欠けるものはありません」——詩23:1：
 2. わたしたちは決して自分自身を良くすることはできません。わたしたちは、いつもわたしたちを養ってくださる牧者を必要とします。彼は、神の小羊としての経験をもって小羊たちを養います。この神の小羊は、神の御座に座しており、神の家の中におり、また神の家のためです——2-6節。啓22:1。
- G. 神はわたしたちの目から、涙をすべてぬぐい去ってくださいます——7:17後

半：

1. 涙は、この時代には避けることのできないものです。しかし、わたしたちの涙は、神の瓶の中に入れられ、彼の書に記されます——ヘブル5:7. 使徒20:19, 31. 詩56:8. 参照、マラキ3:16。
2. 小羊がわたしたちに命の水を供給して、わたしたちを満足させてくださるので、涙の水はぬぐい去られます——エレミヤ9:1. 2:13. 参照、15:16. 哀3:21-25, 55-56。
3. 神に感謝します。悲しみの日と悲しい事柄は、長くは続きません。この世は過ぎ去りつつありますが、わたしたちは祝福されており、流れ出る三一の神から飲み、ついにはわたしたちは、永遠の命の総合計、すなわち、新エルサレムとなります——ヨハネ4:14後半。

©2008 *Living Stream Ministry*